

2022年度年賀差立集中処理及び2パス集中処理について

1 趣旨

短期間で機械を活用した効率の良い作業を行う。

- (1) 年賀郵便物の差立集中処理及び2パス集中処理を行う。
- (2) 区分機配備局において年賀郵便物の円滑な業務運行を確保するため、深夜勤務を実施する。

2 集中処理計画

別紙1のとおり

3 年賀配達結束基準

別紙2のとおり

4 地域区分局の結束予定便

12月29日(木)～12月31日(土)の各地域区分局の元旦持出に係る結束予定便は別紙3のとおり。

5 手区分処理体制の確立

12月29日(木)～31日(土)の年賀郵便物結束の流れは別紙4-1及び4-2を基本とする。元旦配達物数の拡大を図るため手区分処理体制を確立する。

なお、手区分を減らすため可能な限り区分機処理を行うよう検討し、実施日等について地域区分局を中心にエリア内で調整する。

(1) 地域区分局(深夜帯稼働あり)

年賀増強便(下1号前抜便(別紙4-1の※1))以降の手区分結束便までを、可能な限り番号(郵便番号5桁)区分する。

(2) 年賀集中処理局(深夜帯稼働あり)

年賀増強便(下1号前抜便(別紙4-1の※1))は必ず2パス処理を実施する。

なお、下1号相当便については、区分機稼働計画に基づき必要な手区分処理体制を確立する。

(3) 年賀集中処理局(深夜帯稼働なし)

下1号便は必ず2パス処理を実施する。

なお、下1号相当便については、区分機稼働計画に基づき必要な手区分処理体制を確立する。

(4) 被集中局

地域区分局からの下1号便では、区分機配備局あて年賀増強便(下1号便前抜便(別紙4-1の※1))以降の手区分結束便までを番号(郵便番号5桁)区分した年賀郵便物が到着するので、必要な手区分処理体制を確立する。

6 地域区分局における処理体制の確立

- (1) 地域区分局においては、区分機配備局からの差立継過年賀郵便物の処理要員を確保し、最先便への結束(当日の年賀増強便(別紙4-1の※3)又は年賀増強便(下1号便前抜便(別紙4-1の※1))への結束)が確保できる体制を確立する。

- (2) 到着から差立まで6時間以内で区分機処理を完了できるように、専用のフラグ等(別紙5)を活用し、処理の進捗管理を図る。

7 深夜勤務

(1) 実施局 (6局)

新潟局、長野東局、松本南局
新潟中央局、長野中央局、上田局

(2) 実施期間

ア 新潟局及び新潟中央局

12月23日(金)から1月3日(火)までの11勤務12日間で検討。

イ 上記アを除く深夜勤務実施局

12月24日(土)から12月31日(土)までの7勤務8日間で検討。

(3) 勤務時間

勤務パターン(別紙6)を支社から各局に示し、各局で決定の上、支社に連絡する。
なお、各局の報告が取りまとめ次第、改めて情報提供する。

(4) 要員配置

深夜勤を実施する局は、区分機1台につき、深夜に正社員1名と期間雇用社員2名を配置する。

必要に応じてビデオコーディング打鍵要員を増配置する。

(5) 後補充対応

深夜勤実施に伴う後補充は期間雇用社員で対応する。

(6) 服務表の改正

必要な場合には、ルールに基づき服務表の見直しを行う。